

## 「研修会等名称」

## 大学コンソーシアム京都 第11回FDフォーラム

場所：キャンパスプラザ京都

期間：2006年3月11日～12日

## 1. 研修の内容

大学コンソーシアム京都は、FD、単位互換制度以外にも、SD、インターンシップ、高大連携、リエゾン事業、生涯教育、国際交流、学生交流など、幅広い活動を展開しています。現在、55の大学・機関が参加しています。

FDフォーラムは今回で11回となり、参加申請者は8年連続で参加しております。当初と比べ、規模拡大、参加者の所属の全国化が徐々に進行しているように感じます。旧来から第一日目は講演・シンポジウム、第二日目は分科会が行われる形式のようです。本年度は、第一日目に安西慶應義塾大学塾長の講演、そして寺崎立教大学総長室調査役（東京大学名誉教授）などがパネラーとなったシンポジウムが行われました。第二日目は分科会で、本年度は「授業改善 - 双方向型授業の実践 - 」「全入時代における大学の課題 - 初年次教育・接続教育 - 」「短期大学の課題」「大学院大衆化時代の大学院教育 - 専門知をどう育てるか」「FD活動をどう組織化するか - FDの具体化と学生の役割 - 」「大学におけるキャリア教育」「意欲の喚起と動機付け」「大学間授業連携の先進的取り組み - 現代・特色GPとITのO化（OpenCourseWare）を中心に - 」でした。

ここで、3月4日に本学で開催された「大学教育改革フォーラム in 東海」について述べておきますと、参加大学・機関は40、セッション（分科会）は、「高大接続・初年次教育」「語学教育」「大学評価」「事務職研修」「キャリア支援」「金融・経済教育」「専門職大学院」、そして「FD」でした。

参加申請者が主に参加したのは、「全入時代における大学の課題 - 初年次教育・接続教育 - 」でした。登壇者は池田名城大学教授、三尾早稲田大学教授、遠山神奈川工科大学教授、藤田法政大学助教授でした。遠山先生を除き、学会、研究会、あるいは申請者が（登壇者の以前の）所属機関での客員研究員であった折などに、報告を聴講する機会はありましたが、今回のテーマでの報告は初めてでもあり、得るところが多くありました。

池田先生のご報告では、教育接続と初年次教育のコンセプトが一致しない危惧などが指摘されました。あわせて、専門教育との接続を配慮した、接続教育と初年次教育の必要性が課題として提起されることになりました。三尾先生からは、入学時のオリエンテーション、帰国生入学者の事前教育、クラス担任制、いわゆる「プレゼミ」など、興味深いお話を伺うことができました。遠山先生からは、「接続教育施設」（高等学校教員OBが担当）の開設により、物理、数学などで成果をあげている事例などの紹介が行われました。

いずれの報告においても、目的をより鮮明にすることが強調されており、その点が最も印象に残った点です。また、神奈川工科大学の事例中、高等学校教員OBの採用にあたり留意したのは「温厚であること」という報告も、（瑣末な話しに聞こえるかもしれませんが）多分に納得のいくところがありました。

## 2. 研修の成果

理念や目的をはっきりすべきことが教育活動により求められていることをあらためて痛感しました。また、理論なきところに教育が成り立たないことも再認識できました。さらに、やや感想に近い話しになりますが、自らも学ぼうとする謙虚な姿勢や独自の判断、基準で教育活動を展開する危険性も感じることができました。非常に有意義な機会であったと思います。こうした機会をいただいたことに感謝しております。

ご参加が叶わなかった方々には、報告中指摘があった、下記の情報提供を行いたいと思います。いずれもネットで一定の情報収集が可能なもので、かつ私が実際に参加して感銘や刺激を受けたものに限定させていただきます。

・寺崎氏

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/terasaki/>

・山本氏

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/yamamoto/>

・山田氏

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/yamadar/>

・藤田氏

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/fujita/> ;

<http://www.kitaohji.com/books/index.html> (著書)

・日本リメディアル教育学会

<http://remedial.jp/member.html>

・大学教育学会のシンポジウム(濱名先生)

<http://www.kuins.ac.jp/kuinsHP/admission/rpfyecinform1.html>

その他、申請者も、著書『知への作法』、「大学ユニバーサル化時代における初年次教育の課題」(東三河懇話会)、「新入生を対象としたビジネス関連教育の一例-学習スキルの教授法における実践例-」(日本国際秘書学会)などを世に問う機会を得ています。

## 3. 授業への研修成果の反映状況

所属する経済学部では、「学習法」の講義での還元がより直接的かと考えます。来年度の担当予定はないですが、いつか多少なりとも貢献、還元できるのではないかと考えます。

また、特に海外の文献を含めた情報収集、状況によってはこの分野の海外での学会(すでに開催されています)参加やそこの報告などを近い将来考えたいと思っています。

最後に、有志教職員とともに、上記『知への作法』の改訂版出版を目標に、初年次教育の勉強会を開催したいと思っています。中日新聞『研究室発』で約束した、学生の卒業時の質、学力保証につながりうる、教育、教材、教育手法の開発に努めたいと考えています。

接続教育については、大学として採るべき施策の峻別、見極めが重要と考えています。

学部長	FD委員長	FD委員会	総合企画課長	係